

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 一校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて必要な情報を見つけ、理解したり、話の中心をとらえたりすることはできている。しかし、それらの情報を用いて、文章を要約したり、自分の考えをまとめたりするという記述式の問題に課題が見られる。
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえる問題
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したに基づいて、自分の考えをまとめる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	筆算の商の意味を考えることはできているが、「数と計算」の領域では全体的に課題が見られる。また、「図形」の領域について、図形の意味や性質についての問題や、言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られる。
	よくできた問題	(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題
	努力が必要な問題	図形の意味や性質についての問題 底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「将来の夢や目標をもっていますか」との問いに対して、約97%の児童が肯定的に回答しており、全国平均と比べて非常に高い。 ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いに対して、100%の児童が肯定的に回答している。 ・読書が好きな児童が多く、読書をする時間が長い児童も多い。 ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに対して、肯定的な回答をした児童は約60%で、全国平均と比べて低い。 ・平日、土日を含め、1日当たりの勉強時間が少ない児童が多い。今後は児童自らが課題意識をもって、計画的に取り組むことのできるような家庭学習の方法について検討していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

自分の考えを表現することのできる児童の育成を目指し、主題研と関連させながら、日々授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習について、課題の出し方や取り組み方など、学校全体や中学校区で共通理解を図りながら、系統性をもって継続的に取り組むことができるようにしていく。また、学校全体の取組については、通信や懇談等を通して家庭に提供し、家庭学習の習慣化を図ることができるようにする。